

早瀧比咩神社通信

発行所：早瀧比咩神社
総代会
玉野市滝773番地
不定期発行
編集：葛原

おかえりなさい！！ 荒神社と牛頭天王宮 うつぎ原から遷座なる

前号からの遷座ニュースの続き（11月11日これら末社を吉澤建設に運び修理中であるところ迄お伝えしました）



遷座祭後の記念撮影

末社のお社自体が古くて傷みが激しく修理に時間が掛かりました。屋根は本拭きで土が載つていてそのまま運送するのは出来ず現地で瓦を外した状態で移送しました。古い瓦はお宮へ持ち帰り、ブロック基礎の内部に入れて基礎の補強に使いました。傷んだ柱は取り換え、屋根材は耐食性が優れ軽いガルバリウム鋼板製です、

12月14日には吉澤建設

新年（挨拶）神社総代会

新年（丑年）開けましておめでとうございます。氏子の皆様方には良いお年を



新年を迎えた向拝

お迎えのごこと推察申し上げます。昨年

中は早瀧比咩神社の運営に格別のご理解とご協力を頂きありがとうございます。お宮の動きは本通信で逐次お知らせしてきましたが、通常行事に加え、12月下旬にうつぎ原地区の末社である荒神社と牛頭天王宮の早瀧比咩神社境内への遷座が実現し役員一同挨拶したところです。ネット社会が進み、ローカルな氏神様である当社が結構全国的に知られてきて昨年は県内外、市内外から参拝者が多く、氏子の皆様方には見知らぬ人を見かけたら気軽に声掛けしてみてください。

が修理完了し、これら二社を完成した基礎の上に安置できました。その後琴浦製作所へ注文していた



荒神社

記念銘板を基礎上に取付け遷座工事は完成しました。

12月21日午前十時から宮司さんを迎え遷座祭を



牛頭天王宮（右は若一王子宮）

執り行いました。遷座祭とはご神体を遷（うつ）し奉る祭儀を言います。神殿の改築・修理にあたり、一時仮殿（かりどの）へ神体を遷すこと、また、

竣工（しゅんこう）なった神殿へ仮殿から神体を移座する祭儀。遷座祭には、

祭と、今回の遷座の場合のように神殿の修理などのために行う臨時の遷座祭があります。式典は神社役員と氏子及びうつぎ原地区氏子代表者と協力の皆さんと厳粛に執り行われしました。この模様は倉敷ケーブルテレビが取材に訪れ、翌々日に放映されました。

この遷座に要した費用約六五万円で、費用はうつぎ原地区にお願いしました。神社は宮司・お寺ご住職への謝礼三万円です。氏子の皆様のご理解をお願い致します。又この工事のついでに不明だった境内末社四社（木野山神社・牛頭天王宮・若一王子宮・若狹社）の表札銘板を早瀧比咩神社負担で取付ました。

燈籠の寄進
12月25日 蓮岡組の氏子、西紋修平さんから燈籠一基のご寄進を頂きました。ありがとうございます。お気づきの方もいらつしやると思います



燈籠新規ご寄進

が歳旦祭から皆様の足元を明るくしてらしてくれています。場所は参道右手噴水池の前あたりになりますのでご参拝の際にはご確認ください。

歳旦祭

元日零時を期して極寒の中、歳旦祭のお祈りが始まり新年を迎えました。境内ではお屠蘇、甘酒と焼き芋で地元の皆様とおめでどうを交わしました。

厄払い祭

新たな年明けの1月3日午後一時から早瀧比咩神社本殿で該当する年齢に達させられ、希望された三名の皆様は厄払いとお祝いの儀式が執り行われました。

厄年の年齢は人の一生の中でも体力的、家庭環境的、或いは対社会的にそれぞれ転機を迎える時期でもあり、災厄が起りやすい時期とされています。その年に当たって

は、神様のご加護により災厄を祓う厄払いの儀（厄除け）が行われています。

素戔嗚神社の土堀跡

素戔嗚神社は土堀に囲まれていたようですが、江戸時代の水害や長い年月での風化で崩れたと推



裏から見る素戔嗚神社

定されます。この度素戔嗚神社周辺で、土堀らしき跡が見つかり、その位置への石積み作業を行っています。

あとがき

本年の総代・当番・有志の皆さんにはコロナ禍の中、通年行事に加えて雑木伐採処理などの風致維持作業、駐車場の整備、清掃用具収納場所の増設整備、客殿整理棚新設などに加えて、遷座準備作業など頑張ってくださいました。また行事の進展に伴ってパンフレットのII改訂版発行しました（編集士）